

## 蒲生干潟における植物の再生過程(4) ヨシの新芽

### ■概要

2011年4、5月に行った調査では、地上部のヨシは津波による被害で、跡形もない状態となっていた。地下部分については生存が確認されていた（長島, 2011）ものの、その後の大型台風通過などで存続が危ぶまれていた。今回の2012年4月調査では、以前のヨシ原が存在していた地点でヨシの萌芽が確認された。汀線に近い地点では、個体数が少なかったことから、海水がヨシの生長に影響を与えていることが予察される。

### ■調査方法

2012年4月18日にヨシの新芽個体数の調査を行った。調査はかつてヨシ原が存在した任意の地点（St.1～St.3）で、ラインセクト法で行った。それぞれ任意の基点から南北にラインを引いて、St.1では1m×1mのプロット、St.2とSt.3では2m×2mのプロットをとり、プロット毎の新芽の個体数を記録した。

### ■調査結果

プロットあたりの新芽の個体数をTable.1に示す。1平方メートルあたりの平均新芽個体数はSt.1で3.5本、St.2で4.5本、St.3では0.5本となっている。汽水域に平行なライン上の2本となり、最も密度の高いPlotでは1平方メートルあたり77本のヨシを見出すことができた。汀線に近いSt.3では、堤防側のSt.1,2に比べて個体数が少なかった。

Table. 1 プロットあたりの新芽の個体数

Plot	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
St.1	4	14	0	0	6	4	0	0											
St.2	13	17	16	14	0	0	0	3	0	77	57	53	21	6	6	7	11	21	15
St.3	0	0	0	0	2	0	0	3	0	7	4	1	0	10	2				



Fig. 1 ヨシの萌芽

### ■まとめ

今後の生育の推移と、海水と生育との影響について継続調査を行う。新芽の生育の推移を観測し、同時に生育に影響を及ぼすと考えられる水環境のモニターを行いながら、ヨシ原の再生プロセスを追う。

### (引用文献)

長島康雄. 2011. 蒲生干潟における植物の再生過程 (1) ヨシの再生. 仙台市科学館蒲生調査レポート速報版.